

民具整理のお仕事

市民学芸員 横溝 敦子



民具としていただいていたリヤカーの水洗い

難波田城公園は、今年で開園 20 周年を迎えます。開園時に植えた城跡ゾーンの桜の若木も、りっぱに成長し、お花見が楽しめるスポットとなりました。

私と難波田城資料館の関わりも 18 年になります。

難波田城資料館の民具整理の非常勤職員に応募したのが始まりで、5 年間勤務しました。現在は市民学芸員として登録し、園内ガイドやイベントのお手伝い等をしています。

勤務していた時の主な仕事は、学芸員(職員)の指示のもと、寄贈や受託を受けた民具等の整理作業でした。

民具とは「民衆が日常生活の必要から製作・使用してきた伝承的な器具・造形物の総称」(『日本民俗事典』1978 大塚民俗学会 弘文堂)で、その対象は生活全般にわたります。民具は国民の生活や文化の推移を理解するために欠くことのできない資料といえます。仕事を始めたばかりのころは、民具についてほとんど知識がなく、作業を通じていろいろな事を教えていただきました。

そんな民具(資料)整理作業の一例を紹介します。

所蔵者の方から寄贈等の意向を受け、資料の収集・搬入を行います。その資料を使っていた時代・状況等は重要な情報であり、可能な限り寄贈者の方から聞き取り調査を行い、現地の状況等も記録します。

受け入れた資料は、洗浄・番号付け・記録カードの記入・写真撮影・収蔵を行います。

洗浄を行う時には、まず素材と状態をよく観察し、それに合わせて洗浄道具や方法を選択します。その際に必要であれば保存処理や補修をします。

次に資料 1 点ごとに資料番号を付けます。収蔵票に番号や資料名、旧所蔵者などの情報を記入し、タコ糸等で資料に結び付けます。寄贈の場合は、資料本体にも、目立たないところに番号を注記します。

そして、資料番号順に受入台帳に基本情報を記入します。さらに資料ごとに詳細な資料カードを作成します。まず資料を計測します。長さや高さなどを測り、記入します。続いて民具を観察して得た情報(墨書や使用痕跡など)や、聞き取った情報、保存状況なども記入します。できるだけ写真撮影もします。

ここまで終了したら、用途等で分けた「民具分類表」に基づき分類番号を付け、カードを分類別ファイルに収めます。時間が取れたらパソコンにデータを入力します。

最後に資料を収蔵場所に移動し、いつか展示・活用される日を良い状態で迎えるよう保管します。

こうした基礎的な整理作業の積み重ねが資料館の展示や研究を支えています。

博物館等が好きでいつか携われたらと思っていたので、難波田城資料館での仕事は大変興味深く、貴重な経験は大変勉強になりました。

今後もいろいろな形で携わっていけたらと思っています。

市民学芸員のページ *このページは市民学芸員が原稿を執筆、編集しました。

難波田城 ちょっと拝見 みどころ紹介

石造物シリーズ⑦「愛宕山大権現・稲荷大明神」

旧大澤家住宅の裏庭の一角に愛宕山大権現と稲荷大明神の二基の石祠がひっそりと隠れるように立っています。この二基は水谷小学校の近くにあった、塚に伴っていました。どちらにも、宝暦八年(一七五八)、水子邑別当不動寺と刻まれており、水子貝塚公園のそばにあった不動寺の別当(管理僧)が建立したものと思われまます。

愛宕山大権現は、火の神、火俱土を祀る神社です。その中心は京都の愛宕神社といわれ火除けの神として広く崇拝されてきました。また、愛宕神社の本地仏は勝軍地藏とされ、武士に戦勝をもたらすとして信仰されました。市内には、軍馬に跨がる勝軍地藏が上南畑と水子にあり、火除けのほか農業神として祀られています。

稲荷大明神は、京都の伏見稲荷大社を中心とする信仰で、主祭神は食物、殊に稲を司る倉稲魂神といわれ、稲作の神・農業神とされるほか漁業神・商業神・福神として人々の厚い信仰を受け、全国に数万社あるといわれています。(稲植保美)

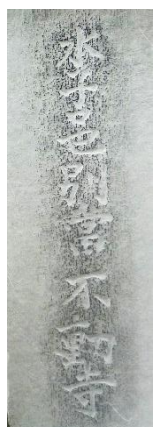
(参考)『民間信仰辞典』桜井徳太郎編、『日本石仏辞典』庚申懇話会編
井田実「地名のおこり 水子の塚」広報ふじみ一九九号



稲荷大明神(左)と愛宕山大権現(右)



石祠左側面の銘文



おもしろ・なつかし体験⑥4

ミニ正月飾り作り

このコーナーは、難波田城公園での体験学習やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

家々に幸せをもたらすという「しめ飾り」。日本古来の伝統ある正月飾りです。去る 12 月 28 日のちょこっと体験で、ミニ正月飾りを作りました。

最初にわらで土台となる輪を作ります。このわらは、公園内の田んぼで市民の皆さんの力で大切に育てられ、収穫をした後の稲わらを使いました。わらの元をしっかりと束ね三等分にし、それを個々に同方向にねじって、次にその三本を逆方向へない合せて一本の縄とします。それを輪にします。皆さん大変苦勞をしましたが立派な土台ができました。

後はかざりつけです。正月飾り用に用意をしていた松、南天、御幣、末広がり、鶴等々…。最後に難波田城のシンボル「なんばった」をかざりつけて出来あがりです。

一生けんめいに作った我が家だけの正月飾り、玄関に掛けていただけた事と思います。

そして良き新年を迎えられた事でしょう。

(岡田栄子)



人の創ったもの★人の使ったもの

行政文書で見つけたお風呂

3月14日再開館から6月14日までの企画展「お風呂の富士見誌～うちで湯ったり・でかけていい湯」では富士見市ゆかりのお風呂を実物、聞き取り、アンケート、そして文書など様々な資料で紹介します。今回はその中から、行政文書により明らかになった昭和20年代のお風呂について紹介します。

行政文書とは

行政文書(ぎょうせいぶんしょ)とはその名の通り「行政体がその職務上作成した、あるいは収受し保存している文書」を指します。行政文書は、ある規則性に拠って綴られているため、それを手がかりに関連する文書も探し出せるという特徴があります。

行政文書からたどるお風呂の実態

最初に見つかった文書は、『富士見市史資料編 6 現代』に掲載されていた昭和28年(1953)の収受印がある「町村別生活改善状況調」(旧水谷村行政文書1044-8)です。この文書には「住生活の改善状況調」として「かまど」「台所改善」「風呂」「便所」の項目があります。そのうち風呂の部分は次の通りです。

風		呂	
長州	ともえ	ひょっこ	太陽熱利用その他

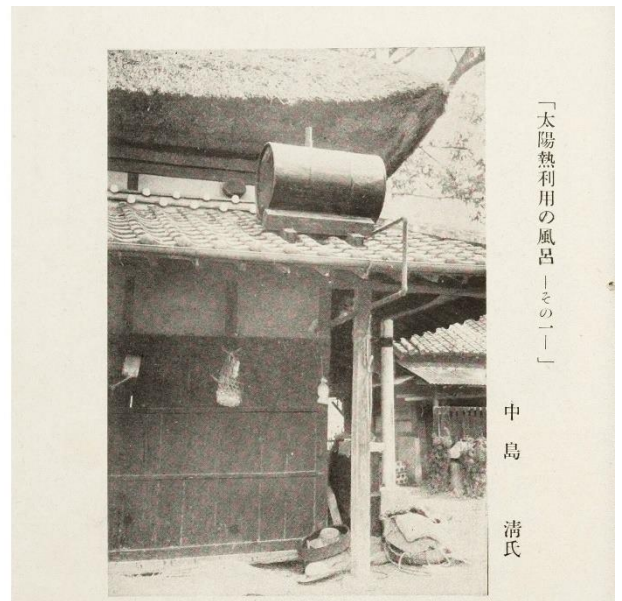
町村別生活改善状況調(部分)

「長州」「ともえ」「ひょっこ」「太陽熱利用」「その他」の項目があることが分かります。この表の水谷村の個所では「ひょっこ」300、「長州」が20という数値になっています。この数値をそれぞれの風呂を持つ戸数とすると、この時期、水谷村(戸数444戸)における、「ひょっこ」の所有率が約68%、「長州」の所有率が約5%、合計約72%の風呂の所有率だったと考えられます。

この文書がある綴(旧水谷村行政文書1044)の名称は「新生活運動関係書類」です。「新生活運動」や「生活改善」は、昭和20年代後半から全国規模で盛んに行われた衣食住の改善運動です。そうすると、これらの運動に関する綴、文書を見ていけば、関連する資料が見つかるかと推測しました。

そう、あたりをつけ見つけたのが、旧水谷村行政文書1002「昭和二十六年 普及事業関係綴」です。この綴から、お風呂に関する文書がいくつか見つかりました。

このコーナーでは、地元に関する資料を紹介します。今では使われなくなったものからわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。



太陽熱利用の風呂の実例紹介(部分)

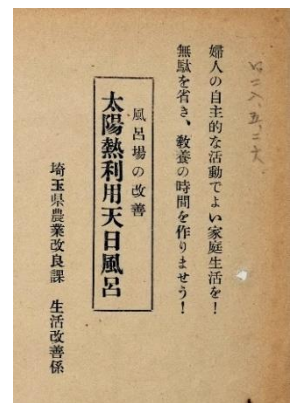
りました。その一つが、埼玉県農業改良課が出した『農業改良普及事業(第21号)』の記事です。記事からは「ともえ」「ひょっこ」が木製の浴槽、「長州」が鉄製の浴槽(いわゆる五右衛門風呂)であると分かりました。

太陽熱利用

また、同綴には「太陽熱利用」を紹介する冊子『生活改善のあゆみ』(旧水谷村行政文書1002-10)もありました。さらに、埼玉県農業改良課生活改善係による太陽熱利用を啓発するビラも綴られていました(旧水谷村行政文書1002-18)。

では、実際はどうだったのでしょうか。今回行った聞き取りによると、南畑地区ではある時点で太陽熱利用のお風呂があったことが確かめられています。その一つのきっかけがこの生活改善にあったとも考えられます。「再生可能エネルギー」という概念が普及する前から太陽熱利用が存在したことは一つの驚きです。

一見、堅いイメージを持たれがちな行政文書からも、見方を工夫することで様々なことがわかります。他の資料も同様です。このほか、昔の風呂桶や、温泉に関する資料も展示します。本企画展に是非足をお運びください (田ノ上 和宏)



太陽熱利用啓発ビラ(部分)

* * 春のイベント予定 * *

●新型コロナウイルスへの対応について

5月10日まで、臨時休館し、すべてのイベントを中止します。それ以降の対応は状況により判断します。公園には入場できます。

●常設展示室更新

2月28日で資料館の工事を終了しました。
工事中に常設展示を一部更新しました。

●春季企画展

「お風呂の富士見誌-うちで湯ったり・でかけていい湯-」

富士見市にゆかりがあるいろいろなお風呂や、古文書に残された湯治などを紹介します(無料)。
会期/3月14日(土)再開館～6月14日(日)

企画展関連講演会(参加無料)

いずれも会場/講座室 定員/40人(申込順)

①「風呂場の近代史 ～浴室と浴槽～」

講師/和田菜穂子氏(建築史家) 中止
とき/3月21日(土)午後1時30分～3時

②「温泉のちょっと深い話し」

講師/田ノ上和宏(企画展担当職員) 中止
とき/4月18日(土)午後1時30分～3時

●ちよこっと体験「昔の着物を着てみよう」

野良着や羽織などを着て、ちよこっと昔の気分を味わってみませんか。子ども用も大人用もあります。

とき/3月28日(土)・29日(日)
午後1時～3時 ※2時30分受付終了
会場/講座室
申込み/直接ご来場ください 中止
※順番待ちをしていただく場合もあります。

協力/和道文化着装協会

●ちよこっと体験「なつかしの自転車紙芝居」

とき/5月2日(土) ①11時～ ②1時～ ③2時～
会場/旧金子家住宅 協力/わんだ一民話らんど

●ちよこっと体験「ごえもん風呂」

古民家にあるごえもん風呂(菖蒲湯)に入る体験です。

とき/5月4日(祝) 午後1時～3時 中止
会場/旧大澤家住宅
※水着とタオルをお持ち下さい。

●ちよこっと体験「よろいを着てみよう」

とき/5月9日(土) 中止
①午前10時～正午 ②午後1時～3時
定員/午前・午後各20人(無料、先着順)
対象/幼児(5歳以上)～大人
会場/旧金子家住宅
協力/川越藩火縄銃鉄砲隊保存会

●ふるさと探訪

「旧宿場と科学のまち・和光市を巡る」

とき/5月9日(土) 午前9時～12時30分 中止
集合/和光市駅改札口
主な見学地/二ホニウムの道、白子富士、旧白子宿
定員/20人(申込順)
参加費/500円(当日集金)
申込み/4月1日(水)～5月6日(振)
午前9時～午後5時に電話で
主催/資料館友の会ふるさと探訪部会・難波田城資料館

◆難波田城公園まつり

6月7日 10月25日(日)に開催する予定です。

ちよつ蔵市(難波田城公園活用推進協議会主催)

3月22日(日)草もち 中止
4月26日(日)柏もち 中止 ちよつ蔵も5月10日
5月はなし まで臨時休業します

田舎まんじゅう販売
ちよつ蔵再開まで中止
お月見亭(予約制手打ちうどんランチ)
3月は中止、4月・5月も中止
11:30～13:30

※他にも様々なイベントがあります。各イベントの詳細は、広報ふじみやポスター、チラシ、公式サイトなどでお確かめください。

最新の情報は公式サイトでお確かめください。

〈開園時間変更のお知らせ〉

4月から9月の間、公園の開門時間は午後6時になります。資料館と古民家は午後5時までです。



富士見市立難波田城資料館
〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1

TEL. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

https://www.city.fujimi.saitama.jp/madoguchi_shisetsu/02shisetsu/shiryokan/nanbatajo/index.html

◆休館日/月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始 開館時間/午前9時～午後5時

◇公園休園日/なし 開園時間/午前9時～午後6時(4月～9月) 午前9時～午後5時(10月～3月)

資料館公式サイト

